初等中等教育における国際教育推進検討会報告

ポイント

育 教

国際化した社会で、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要な態度・能力の基礎を育成するための教育

①異文化や異文化をもつ人々を受容し共生する力 ②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立 ③自ら発信し行動する力

基本的視点

①国際教育の実践

力の向上と「学び

り」をもたらす授

②国際教育資源活

用のため、共有・

連携の促進と支援

③「海外の先駆的

な取組を日本の学

校教育に生かす」

という視点

体制の構築

の広がり・深ま

業づくり



現状と課題



国際教育を充実するための方策

(1)授業の実践

- ・一部の教員任せ
- ・単なる体験や交流に終始

(2) 教員の指導力

- ・ 実践的な研修の不足
- ・中核的教員の不足

(3) 海外派遣教員の活用

- ・派遣教員の活用不足
- ・活用方針の不足

(4) 外部資源の活用

- ・情報の不足
- コーディネーターの不在

(5) 学校の多国籍化・多文化化

- 外国人児童生徒の増加
- ・ 日本語指導充実の必要
- ・ 不就学や母語保持等の課題

(6) 海外子女教育

- ・成果の検証の必要
- ・状況の変化への対応

1. 学校教育活動の充実

- (1) 学びが広がり深まる授業づくり
 - -優れた取組の普及
 - -学習内容・方法等の開発
 - -ITの活用
 - -言語教育の充実

(2) 教員の実践力の向上

- -参加型・実践型の研修の実施
- (3) 直接的な異文化体験の重視
 - -高校生留学・学校間交流の促進
- (4) 外国人児童生徒教育の充実
 - -日本語指導の充実・不就学への対応
 - -共に進める国際教育の推進

2. 国際教育資源の活用と連携のため の支援体制の構築

- (1) 海外経験を有する教員の活用
 - -人事配置等組織的な活用の促進
 - -派遣教員の情報発信の支援
- (2) 地域における協働の促進
 - -地域国際教育ネットワークの形成
 - -優れた連携事例の普及

3. 海外子女教育の変化と成果の活用

- (1) 海外の成果を日本の学校教育に生かす
 - -海外子女教育の成果の発信
- (2) 海外子女教育・帰国児童生徒教育の充実
 - -実態・ニーズを踏まえた充実方策
 - -特性に配慮した帰国児童生徒教育

国際教育の 総合的な推進

(1)国際教育拠点の形成

- ▶地域の実情や特色を生かし、 先進的な取組を実施
- ▶大学等と連携し、カリキュラム・ 教材開発などの実践
- ▶地域の他の学校を先導
- ▶取組例
 - -海外派遣教員の集中配置
 - -海外姉妹校との交換留学
 - ITの活用
 - リーダー的資質の育成

(2)国際教育資源の共有化と 連携の強化

- ▶指導力向上ワークショップ の実施
- ▶国際教育データベースの開発
- ▶地域の人材・組織の連携支援
 - 関係者の情報交換
 - コーディネーターの配置
 - -NPO等の活動への支援
 - 外部人材・組織の発掘